

令和 2 年度 学校評価報告書 1 (計画段階 ・ 実施段階)

いづれかを○で囲む

学校名	福岡市立 高等学校	学校経営方針・学校教育方針	今年度の重点目標	評価 (総合)
学校長	ふりがな さえき てつろう 氏 名 佐伯 哲郎	志を持ち、自らの目標を達成しようと努力する生徒と、意欲的・建設的に学校運営に参画する教職員の協働により、「熱・意欲・力」の校訓を具現化する学校をつくる。 そのために、すべての教職員が元気で生徒が安心して学べ、成長できる学習環境づくりと学力向上による進路実現をめざし、生徒に誇りと自信を持たせる教育活動を実践する。 また、市民からの期待と信頼をさらに高めるために、「福翔改革サードステージ」第 2 章を推進し、本校の新たな歴史を切り開く学校づくりを進める。	含い言葉：「一歩前へ」 (1) 和の学校運営と「希望進路の実現と部活動の活性化」 目標：難関私大 (西南学院大を含む) 200 人以上。就職内定率 100%、部活動の活性化を推進する。(体制、実績、活動内容等) (2) 授業改善・授業改革の推進と若手教師の育成 計画的・組織的な校内研修会 (3) キャリア教育の充実 「産業社会と人間」を中心に、ジュニア・アチーブメント・プログラムに全教職員で組織的に取り組む。 (4) 組織的な学校運営と危機管理の徹底 危機意識をもち、各部・各教科等が連携し、組織的に生徒の指導や校務運営にあたる。 (5) 人権教育の更なる推進 人権感覚を高める取組の推進と自尊尊重する学校風土の醸成	学校自己評価 学校関係者評価
校長本校在任年数	1 年			A A
学校関係者評価委員会委員長	ふりがな これのり あつし 氏 名 是則 篤志			
昨年度の成果と課題	昨年度は、A 事業の研究指定校として福岡型 AI を実践することで授業改善に取組んだ。また、本校の学校経営方針を具現化してきたのは、キャリア教育推進委員会と改革検討委員会である。キャリア教育推進委員会では、グローバル経営プログラムや高大連携による体験活動の検討を行った。特に、九州大学芸術工学部との連携教育では、総合的な探究の時間として「SDGs」を取り入れて進化した。改革検討委員会では、新教育課程やサードステージ第 2 章の具体的な取組(特別文理、スポ・文)、研修旅行の在り方、特別文理プログラムの 3 年次のクラス編成等について改革を行った。今年度の課題は、教育課程及びコースや観点別評価の在り方、総合的な探究の時間における探究学習プログラムの開発、ICT 活用授業研究グループの改革、服務倫理研修の効果的な進め方等である。			

評価項目	目標及び具体的な方策等		学校自己評価	取組状況・成果・課題	学校関係者評価	学校関係者評価委員会からの意見等	今後に向けての方針・改善点
	目標	具体的方策					
教育課程・学習指導	主体的・対話的で深い学びが得られるような授業改善を図る。また、オンライン学習構築にむけ、ICT 機器積極的に活用し、授業効果の改善を目指す。生徒の学習意欲を高めるとともに、個々の生徒の進路実現を目指す。 新教育課程の編成作業を行うとともに、観点別評価の導入に向け、積極的に取り組む。また、推薦入試の改善を図る。	ICT 機器を用いて、授業の効率化を目指し、深い学びを得られるような授業改善につなげる。 今回の新型コロナウイルスの感染防止に伴う長期に渡る休校措置に耐えるように教育指導体制を構築する。 改革検討委員会と連携して具体的な提案を行い、新教育課程の作成と観点別評価の導入を行う。 推薦入学者カルテを利用し、今年度も継続して、推薦入学者の面談を行う。	A A A B	・休校措置に備えて、まず、Webex の会議番号を先生方に取得してもらい、その一覧表を作成した。次に、リモート授業実施計画と使用マニュアルを作成し、先生方に周知した。 ・市教育委員会より、11 月末までに、新教育課程の概要の提出を求められたので、臨時の教科主任会を数回開催し、検討を重ね、改革検討委員会に提案し、原案がほぼ完成する段階までになった。	A	・リモート授業や Web 会議等、コロナ禍の中で様々な新しい取組が行われています。この経験は次年度に生かしてほしい。 ・教科主任会を通じて、定期的に各教科の意見を集約するとともに、コロナ禍の対応や新学習指導要領に向けた取組も進んでいる。	・リモート授業は、実施計画は作成したが、幸いなことに、今のところ休校措置にはなっておらず、一部の先生方での進考実施にとどまっている。コロナ禍の対応にかかわらず、来年度は、ICT 機器をさらに、有効に活用していきたいと考えている。 ・毎年の仕事である、教科書採択、副教材選定、教員研修の検討等に加え、新教育課程や観点別評価の検討、リモート授業等の検討等様々な内容を検討してきた。来年度も積極的に、取り組んでいきたいと考えている。
	規範意識の高い生徒を育てる。	自転車通学者に対し、登下校、駐輪、交通マナー指導を定期的に行い、主体的に行動できるようにさせる。 生徒には、その場に応じた挨拶や状況に応じた適切な行動を身につけさせ、学校外でも地域の方々に愛される態度を育成する。 定例の(月 1 回)「いじめ防止対策委員会」とその事務局において、未然防止、早期発見、早期解決等にあたる。 各部、各教科会、部活動顧問会等において、共通理解をもって指導し、認め合い、支えあう人間関係づくりを推進する。	B B A A	・毎朝、様々な場所で登校指導を行っており、少しづつであるがマナーの向上が見られた。根気強く継続指導をやっていく。全体で見合せての指導は難しい状況だが、学年単位で集めての指導や webex を使ってマナーアップを図っていく。 ・校内でのあいさつは出来つつあるが、学校外や地域の方への挨拶をもっと励行していく。 ・毎週のいじめ防止対策事務局会で生徒の実態、状況を確認し、素早い対応ができていて、生徒の取り巻く状況も難しくなってきた。学年、担任、全体でサポート体制を作り、丁寧で素早い対応を心がける。	A	・登校時の自転車マナーはとても良いと思いますが、下校時の自転車マナーは改善されていません。今後も粘り強く継続して指導してほしい。 ・若者のマナーやモラルは時代とともに変化していると感じます。これからは環境問題や弱者に寄り添うような視点での教育が必要に感じる。 ・いじめへの対応が、学校全体で組織的に対応しているように感じます。また、支援が必要な生徒への適切な指導を期待する。	・学校内で身につけたマナーを、学校外でも活かすことができるように、丁寧に粘り強く指導していく必要がある。また、教員だけでなく、外部の方なども巻き込んで違った視点から指導できる体制も構築していく必要がある。
	「福翔高校いじめ防止基本方針」に基づき、総合的かつ効果的にいじめ防止を推進する。		A		A		様々な家庭環境や生徒の考え、行動が多様化している中で、いじめ防止事務局を充実させ、チームで素早い対応ができるように、職員室の雰囲気作りを大切にいく。また、日頃から笑顔あふれるコミュニケーションが取れる関係性を構築していく。
	生徒一人一人の進路保障を目指し、適切な指導・助言を行う。	生徒の進路保障のための課外や補習を計画的に準備して、円滑に進める。 「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」の内容を深化し、「主体性・多様性・協働性」を養成する。	A A	・現在のところ順調に進んでいる。特に「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」はキャリア担当を中心にかつてないクオリティのプログラムを提供できている。	A	・大学入試改革で、大学入学共通テストが導入されるなど、高校現場としての大変さを感じますが、その改革に対応できる進路指導の進化・発展を期待している。	
進路指導	学年に応じた情報の提供や支援を行う。	学年部と進路指導課の連携を強化し、進路指導課からの情報発信を積極的にを行う。 キャリアプランノートや SDG s ワークシートなどを有効に活用し、キャリア教育を一層充実させる。	B A	・3 年生への受験情報の提供、1 年生の「産業社会と人間」の連携は取れているものの、2 年生に対するプログラムが次々と中止になってしまった。来年度の「総合的な探究の時間」の充実に向けてさらに計画・準備を充実したい。	A	・今年度蓄積することができた高大連携・グループワークの活動経験を今後の「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」を通して、将来の職業や大学・学部・学問内容などを考える機会を設け、キャリア意識の向上を図ることができている。	
	基本的な図書館利用技術を身につけさせ、主体的な学習活動ができるようにさせる。また、図書館の有効利用を促進し、本年度図書館に整備されたタブレットの利用研究を行う。	図書館の利用を活性化し環境の整備を進め、読書指導の充実を図る。昨年度に引き続き学級に出張貸出を行う。 蔵書数の増加(学校図書館の標準蔵書数)を目指す。選定に関しては、授業等での利用促進のため、専門図書を優先的に整備する。	A B	・年度当初休校の影響を受けず、図書貸出数は前年並みを記録した。本年度も学級に出張貸出しを出した。昨年度好評だった、生徒による野多目小の出張読み聞かせは、コロナ禍で残念ながら中止した。 ・蔵書整備は、標準に満たないが、例年どおり、内容が古いもの、利用の見込みのない資料等除籍し、整備をすすめた。	A	・インターネットを利用した調べ学習も進んでいますが、図書館を利用した学習活動の充実のために専門書の購入も行われている。	・授業等での図書館活用促進のため、ICT 機器等を活用しながら、全教職員及び全生徒の利用しやすい図書館を目指したい。 ・蔵書数や図書数を確保し、標準蔵書数の確保を目指したい。ただし、現設備では無理なので、蔵書のデジタル化についても情報収集・および研究を推進したい。
	サードステージ第 2 章を円滑に進めるとともに新学習指導要領に伴う検討を行う。 ・3 本の矢の推進・新教育課程編成の検討 ・広報活動の改善・充実を図る ・ホームページの活用・デジタル体験入学	希望進路実現のための柔軟なカリキュラム検討・実施及び新学習指導要領のカリキュラムの検討を行う。また、「福翔サードステージ第 2 章(3 本の矢)」を進める。 「中学校、大学との交流」「部活動集会」「ホームページのリニューアル」等、部活動活性化に伴う積極的発信を行う。	A B	・新学習指導要領に伴うカリキュラムが決定できた。 第 2 章を円滑に進めることができるように、確認を行ったり改善を図ったりして進めている。 ホームページのリニューアルは現在進行中 中学校交流：0 回、大学交流：3 回 中学校訪問：夏 3 7 校、秋 4 9 校	A	・日本経済大学との連携授業や九州大学とコラボした SDGs の取組を通して、新たな学校の方向性を決めるカギとなるのではないかと期待している。 ・改革検討委員会が福翔高校の特色ある教育の方向性を議論する場であるようです。これからも「福翔サードステージ第 2 章」を推進してください。	・サードステージ第 2 章(3 本の矢)は学校改革の柱で魅力ある学校づくりに必要不可欠であるため、さらに改善をしていかながら継続していく。 ・魅力ある学校であることを積極的に PR するために、ホームページなどを積極的に活用していく。
	主体性の育成を目指すキャリア教育の推進 ・SDG s チャレンジプロジェクト ・ジュニア・アチーブメントプログラム	SDG s チャレンジプロジェクトを実施し、次年度に向けて体系化を図る。また、職員研修などを行い全校的な導入を目指す。 ジュニア・アチーブメントプログラムの効果的活用と「SCP の活動充実」「SCP 活動積極的発信」に努める。またアジア大会への参加を目指す。	B A	・SDG s については、授業を実施することができ、11/10 の国際アワードに参加した。職員研修会を 11/27 に行った。 ・SCP の中間決算を 10/26 に実施した。1 年生への参加を促している。	A	・高大連携はさらに充実した取り組みとなるよう、特に SDG s については組織的に推進できるようにしていきたい。 ・キャリア教育を全校的に取り組むように盛り上げていきたい。	

特活指導	集団活動を通して、自主的・実践的な態度を育てる。	生徒総会、クラスマッチなどの行事を、生徒会が中心となり、自主的な企画・運営ができるように支援する。	B	B	A	・コロナ感染症のため、各行事が中止となり、生徒会中心の活動ができなかった。しかし、webexでの生徒総会など、工夫しながら企画・運営することができた。今後の学校行事も今までは違う形で企画・運営を模索しながら実施していきたい。	A	・部活動の加入率が高いことは福翔高校の特色の一つだと思う。 ・コロナ禍で各部活動では大会等が中止されても、生徒は前向きに部活動に取り組んでいることは素晴らしい。 ・部活動生の頑張りが学校の活性化につながると考える。	・コロナ禍の中での活動を機に、勝利を目指す活動と人間性を高める活動という部活動の在り方を見直していくことや部活動を通して身につけた力を学校生活へつなげていくような指導を職員全体で図っていく。			
	体育部・文化部の活動の更なる活性化を目指す。	定期的な部活動顧問会議を開き、規律ある一貫した指導ができるよう意見交換、情報共有等に努める。 部活動加入率90%以上を目指し、部活動生が学校の真のリーダーとなるように研修を行い育成する。	B			A		・コロナ禍の中での部活動をどうしていくのか、顧問会で情報を共有しながら活動ができた。部活動加入率も86%と高く、全体での部活動集会は出来ないが、学年単位での集会を実施し、今後も継続していく。	・SCやSSWと連携することで、精神的に不安定な生徒に対して適切な支援が行えた。次年度はさらに連携の強化を図ってきたい。 職員研修は参加者が少なかったので時期を検討し、今年度より多くの参加を促す。			
	ウイルス感染症の予防を意識し実践しながら、心身ともに健康的な学校生活を送ることができる力の育成を目指す。	毎日の健康観察で体調と出席状況の変化を把握し、配慮が必要な生徒についてははじめ防止対策委員会を中心に支援する。 防災避難訓練やAED、エビペン研修を行い安心して学校生活を送ることができるよう努める。	C			C		・担任からの連絡やSCやSSWとの面談等から生徒の実態把握に努め、必要な支援を行っている。 ・今年度の避難訓練は避難経路等の確認を行った。AEDとエビペンの研修は例年通り実施し理解を深めることができた。	・コロナ禍の中で、学校の衛生面の対策として苦勞されることが多かったと推測される。 ・AED研修やエビペン研修は、生徒の命に係わることだから、今後も継続的にして全職員が操作方法を学んでほしい。			
保健環境美化	身の回りや校舎内外に対する環境美化意識を持ち、心豊かに学校生活を送ることができるよう支援する。	日々の清掃活動を通じて生徒会や福祉委員を中心にリサイクル活動を推進していく。 2学期以降、PTAや地域の方々と一緒に、校内美化活動を行う中でトイレ清掃や花いっぱい運動に取り組む。	B	C	C	・10月から新しいゴミ分別が始まり、生徒会役員を中心に混入ゴミ対策を行っている。 ・今年度はコロナ禍において、トイレ清掃強化週間を設定するとともに、小規模での花いっぱい運動を実施予定である。	B	・SCやSSWと連携することで、精神的に不安定な生徒に対して適切な支援が行えた。次年度はさらに連携の強化を図ってきたい。 職員研修は参加者が少なかったので時期を検討し、今年度より多くの参加を促す。	・引き続き、学校全体でゴミの減量や適切な処理に取り組んでいく。今年度はコロナ禍のため行事を形式を変えて実施せざるを得なかった。反省点を生かし、次年度に繋げていく。			
	1学年	基本的な生活習慣を確立するとともに、自ら意欲的に学習に取り組ませる。	「産業社会と人間」の授業やホームルーム活動を通じて、自己の将来に向けて目標設定をさせ学習意欲を引き出す。 規則正しい学校生活を送らせるとともに、計画的・継続的に家庭学習に取り組ませる。			A		A	A	A	・1年生は、コロナ禍での臨時休校をしたことで、人間関係づくりが難しかったと考えます。高1ギャップを生まない、環境づくりを期待する。 ・1年生は、入学当初から休校になり高校生活に適應させることが難しかったと思われるが、基本的な生活習慣及び学習習慣を身に付けさせるように指導している。	・2年生になり、コースごとのクラス編成になるので、コースに応じたきめ細かい指導を目指したい。また、大学入試改革が一層進んでいくことが予測されるので、情報発信できる体制づくりをしたい。
		集団への帰属意識を高め、福翔生としてふさわしい態度を身につけさせる。	本校の伝統や校風を理解させ、高校生・福翔生としての意識を持たせるよう指導する。 集団への帰属意識を高め、学年団の和を育てる。また、安心して過ごすことのできる環境づくりに努める。			B					A	・新型コロナウイルス感染予防対策のため、学校行事が行えず、校歌の指導もまだできていない。それでも、学年スローガンや学年旗を作成するなどして、帰属意識を高める工夫を行っている。
2学年	基本的な生活習慣の確立とともに、落ち着いた学校生活のもと、文武両道に努めさせる。	学年の三原則である「時を守る・挨拶励行・気遣い」指導を徹底し、文武両道に努める環境を作る。 進路目標を明確にし、自ら姿や姿勢を身につけ、計画的に学習に取り組む態度を養う。	C	C	C	C	・2年生は、コロナ禍により高校生活の最大行事である研修旅行が中止になったことはつらかったと思います。代替での実施が可能であれば、無理ない範囲で実施してほしい。 ・研修旅行の実施は出来なかったが、事前学習をリモート授業で行うなど、工夫されていたことは素晴らしい。	・学年の三原則である「時を守る・挨拶励行・気遣い」指導を次年度も継続する。校訓の熟・意気・力のもと、生徒が全力で文武両道を実践することができる環境を整える。				
	学校行事に積極的に参加し、集団への所属意識を高めさせる。	各行事において、一人ひとりにリーダーシップと協力のあり方を理解させ、集団への所属意識を高めさせる。 研修旅行の意義を理解させ、積極的に参加する態度を促し、成長した姿や態度を実感させる。	C				C	・新型コロナウイルス感染拡大による休校期間が続いたが、分割・分散登校等の段階的処置により学年全体的にはスムーズな学校再開が図られたと感じている。しかし個人においては、進路や学習、家庭状況等悩みを抱える生徒は存在する。基本的な生活習慣確立に向けて面談等の指導を継続する。 ・行事が次々と中止される中、現段階では研修旅行は実施される運びとなっている。研修先及び内容は原案とは変更されたが、所属意識を高めさせたり、責任ある行動をすることや主体的な活動に取り組むといった目的を果したために、事前指導を行っている最中である。	・2年生として行事を体験しないまま最上級生となる。次年度は行事を牽引しなければならない立場となるため、例年より早めに生徒への働きかけをする必要がある。リーダーとしての心構えや準備の重要性を伝えていきたい。			
	3学年	進路実現のために適切な進路指導を行う。	三者面談をはじめ、二者面談を実施し、生徒の実情に適した丁寧な指導をめざす。 高い進路目標を持たせ、その実現のために、自立した態度を育成する。				A	A	A	A	・進路実現に向けた生徒のモチベーションを維持することは大変だったと考えられる。 ・卒業式も簡略化されると思いますが、印象にのこる卒業生の参列方法を考えてください。	・大学の入試改革に伴う学習内容や評価の対策が急務である。特に、思考力の育成と文章を作る力を身につけることが挙げられる。
最高学年としての自覚を促し、後輩の示範となる言動を積極的に行わせる。		あいさつを中心に、日常の中で随時指導し、まずは、自立した態度を身につけさせる。 校内の規律を遵守させ、落ち着いた学校生活を送らせながら、後輩に良い伝統を継承している生徒を褒めさせる。	B	B	・面談を通して、丁寧に受験大学や学部学科の確認と学習計画や学習方法のアドバイスをした。学校推薦型選抜入試や総合型選抜入試の対策としては、全職員で小論文や面接の指導を行い、多くの生徒が、合格している。 ・学校行事での最高学年としての自覚を促すことができなかった分を学校生活の中で行っている。	・従来の学校生活や学校行事を可能な限り取り戻すことに尽きる。						
本校が抱える人権に関する諸課題に対応する職員研修会を企画し、人権尊重の精神の涵養を目指し、人権が大切にされた環境を創造する取り組みを推進する。		人権教育全般の指導内容と方法を検証し、本校の抱える人権に関する諸課題に対応するよう改善を図っていく。 校内職員研修のさらなる充実にも努め、全教職員に自主的な研修を促す。	B	A	・職員研修については、「人権に関する知的理解の充実」をテーマに、人権に関する法令や指針の意義や内容を深める研修を行った。特設人権学習は例年通りのテーマで、生徒にとって、より主体的・効果的な内容・手法を研究し、取り入れて実施した。	・職員研修を通して人権尊重の理念を共有化し、生徒が自らの大切さが認められていることを実感できるような環境づくりに努めてほしい。また、人権教育の取組や成果を、家庭や地域に発信する機会を設けてほしい。 ・いじめ等の実態を的確に把握し、課題解決を図るための校内組織を整備している。						
人権教育	教育相談活動の充実をはかり、実効的な活動を推進する。	気になる生徒の早期把握と情報共有を推進し、sc・sswと連携して不登校等の生徒数を減らす。 通級指導教室の運営を通して、全職員に特別支援教育の視点に立った教育活動の推進を図る。	B	B	B	B	・不登校傾向の生徒への対応を効果的にするため、SC、SSWを交えて、週週、情報共有のための会議を開いた。SCの助言・面談及び、本年度より配置されたSSWの助言・協働に多大な助力をいただいた。通級指導についても、円滑かつ効果的に行った。また、本年度は、コロナによる偏見・差別についても、気を付けて生徒指導を行った。	・生徒の不安や悩みを受け止める体制ができている、配慮や支援を要する生徒の共通理解を図っている。				
	・教職員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーで「気になる生徒」についての情報を共有し、協働して生徒に寄り添い、更なる人権教育の推進に努めたい。											

※ 学校自己評価は、5段階評価(A…目標を大幅に上回る達成度、B…目標を上回る達成度、C…目標どおりの達成度、D…目標を下回る達成度、E…目標を大幅に下回る達成度)で成果や取り組み状況等について記入すること。

※ 学校関係者評価は、学校自己評価について5段階評価(A～E)で評価すること。